

結婚・妊娠・出産・子育てに対する 若年期からの意識改革について

【担当省庁】内閣府、厚生労働省

我が国の少子化の進行及び人口減少は深刻さを増しており、総人口は減少局面に入っているところであるが、結婚や子育てを含め、将来への漠然とした不安を若者が抱えていることが少子化の一因と言われている。こうした若者の不安を和らげるために、若者が結婚、妊娠・出産、子育て、仕事を含めた将来のライフデザインを、希望を持って描くことができるよう、若年期から様々なライフイベントについて考える機会を提供し、意識改革をすることが必要であることから、以下の支援を行っていただきたい。

- ライフデザインを考える方策として、子どもの時期から、乳幼児とふれあう体験を通じて命の尊さやこどもを持つイメージを浮かべ、子どもを生み育てることの喜びが感じられる社会的機運を高めるため、「乳幼児ふれあい体験」のような取組の推進
- 男女問わず、学校教育段階から、性や妊娠、命の尊さに関する正しい知識の啓発、安心・安全で健やかな妊娠・出産、産後の健康管理等を促すプレコンセプションケア普及・促進への支援の充実
- プレコンセプションケアの一環として、従業員の健康診断のオプションとして自身の妊孕力や不妊症に係る検査とカウンセリングを実施するなど、仕事と妊活の両立支援に取り組む企業への支援制度の創設
- 仕事と子育ての両立体験インターンシップの創出や、結婚や子育てに関するポジティブなイメージを醸成するワークショップの実施など、自身のライフデザインを考えることができる環境の推進につながる支援の充実
- 体験型婚活（スポーツや観光、寺社仏閣など地域の魅力ある資源を活用しつつ、共通の体験を通じて自然に男女が盛り上がる婚活イベント）やオンライン婚活（AIマッチングシステム）など、地方自治体の実施する婚活支援への安定的かつ継続的な財政支援の拡充

【現状・課題等】

- 令和4年の京都府の出生数は前年比750人減の15,068人で過去最少(厚生労働省人口動態統計、全国の出生数は770,759人)婚姻件数は9,571組(前年比154組増、全国の婚姻件数は504,930組)となるなど、少子化がさらに進んでいる。
- 少子化対策にあたっては、男女ともに性や妊娠に関する正しい知識を身に付け、健康管理を行うよう促すプレコンセプションケアの普及や、若者が結婚・妊娠・出産・子育て・仕事を含めた将来のライフデザインを希望どおり描けるようになることが必要であり、知識や情報を適切な時期に知ることが重要である。
- 京都府では、小・中・高等学校に、助産師等と連携し妊娠や出産等に関する出張講座を行っているが、出張できる校数に限りがあり、継続的な学習機会の提供が困難となっている。各学校が主体的・継続的に取り組める体制整備が必要である。

京 都 府 の担当課	健康福祉部 こども・青少年総合対策室(075-414-4602)
---------------	----------------------------------

【国の事業等】

■概算要求〔こども家庭庁〕

▶ 母子保健医療対策総合支援事業「性と健康の相談センター事業」 8.3億円

(令和5年度予算9.5億円)

○プレコンセプションケアを含む成育医療等の提供に関する研究、相談支援等の推進について、「こども未来戦略方針」を踏まえ、予算編成過程において検討。

▶ 地域少子化対策重点交付金 30億円(令和5年度予算10億円)

○ 結婚、子育てに関する地方公共団体の取組（結婚に対する取組、結婚、妊娠・出産、子育てに温かい社会づくり・気運の醸成の取組）を支援

○ 結婚に伴う新生活を経済的に支援する結婚新生活支援事業（新婚世帯を対象に家賃、引越費用等補助）の取組を支援

○ 地域の結婚支援ボランティア・事業者等を活用した伴走型結婚支援の充実、子育て家庭やこどもとのふれあい事業等を重点的に支援するなど拡充

【京都府の取組】

■学校と連携した妊娠・出産に関する啓発事業（令和5年度予算2,430千円）

▶ 京都府少子化対策条例第29条に基づき、子どもが医学的知見に基づく妊娠及び出産に関する知識を学ぶ機会を提供し、子どもが真に望むライフデザインの実現に寄与することを目的に、小・中・高等学校等に対して、産婦人科医師や助産師と連携して学習支援体制を整備

■学校連携型小中学生乳幼児ふれあい事業（令和5年度予算400千円）

▶ 核家族化、少子化等により、乳幼児とふれあう機会が減少している現状において、小中学生が定期的に自然に乳幼児とふれあうことによって、子どもを慈しむ心や子育てに関心を持つ機会を創出することが重要という観点から、小中学生が休み時間等に自由に乳幼児とふれあえる場を創出

■若者ライフデザイン・育児と仕事両立体験事業（令和5年度予算14,669千円）

▶ 若者（学生や若手社員）が将来の人生設計を考えるきっかけとして、ライフデザインワークショップの開催や、企業等によるインターンシップの一環として、仕事と子育てを両立している家庭と交流し、体験的に学ぶ機会を提供

■子育て環境日本一推進戦略事業（令和5年度予算1,500千円）

▶ これからの社会を担う中学生・高校生が妊娠・出産・子育て・ライフデザインについて学ぶため、授業で実践的・体験的に学ぶ「子育て学習プログラム」及び「幼児ふれあい学習プログラム」により教育環境の充実を図る。

■きょうと婚活応援センター

総合的な婚活支援拠点として平成27年10月に開設。独身者会員を募り、ボランティア等による出会いイベントの開催や、婚活支援を目的とした府内の非営利団体から構成された団体が開催する婚活イベントの広報支援等に加え、スポーツ観戦や寺社散策等を組み合わせた体験型婚活やAIマッチングシステムの導入等を実施